

CODE 海外災害援助市民センター
2011 年度 事業計画

【海外災害(地)への救援活動事業】

事業名	アフガニスタン救援プロジェクト ～ぶどう畑再生支援事業～
実施日時	2003 年～
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミール・バチャコット地域
受益対象者の 範囲及び予定 人数	ミール・バチャコット地域の 4 村。人口は約 15,000 人、全世帯 1560 世帯。本事業に直接裨益する農業従事者は 489 世帯（2011 年 4 月末現在）。
実施内容	<p>●2010 年度までの経緯：兵庫県佐用町を提案自治体として、2007 年からの 3 ヶ年、JICA の草の根技術協力事業（地域提案型）を終えた。以後も現地カウンターパートのラフマンさんに研修の成果についてヒアリングを続け、学んだ技術が活かされていることを確認した。事務局での活動は、報告や広報による支援者拡大が主となった。アフガニスタンで生産されたぶどうを日本で利用（菓子づくりなど）することで本事業を広報する取り組みについて、試作や情報収集を継続している。</p> <p>●2011 年度の計画：上述の JICA の草の根技術協力事業（地域提案型）の技術的な成果が少しずつ見えてきている。引き続き、現地カウンターパートのラフマンさんを通してヒアリングを続けるとともに、HP 上での報告・情報発信を充実させ、支援者増を図る。またミール・バチャコットで生産された干しぶどうを広報に用いて、改めてアフガニスタンへの関心を高め、協力者拡大に努める。カフェ事業を行っている NPO 法人スローワーク協会と連携し、菓子づくりへの利用（同団体には、CODE ボランティアの S さんが就労している）。</p>

事業名	サモア・西スマトラ地震救援プロジェクト
実施日時	2009 年 9 月～
実施場所	サモア諸島及びインドネシア・スマトラ島西部パダン県周辺
受益対象者の 範囲及び予定 人数	
実施内容	<p>●2010 年度までの経緯： 2010 年度の報告の通り、CODE 理事・藤野さんの PHD 協会の元研修生アリさんがパダン県で被災した漁村におられたことから、CODE に集まった寄付を全額 PHD 協会に託したので、CODE としてこのプロジェクトは終了した。経過については PHD 協会からの報告を待つ。</p> <p>●2011 年度の計画： サモアへの支援金についての協力方法を見直す。</p>

事業名	ハイチ地震救援プロジェクト
実施日時	2010年1月13日から
実施場所	ハイチ共和国レオガン
受益対象者の範囲及び予定人数	ラプレン、レオガン周辺住民
実施内容	<p>●2010年度までの経緯：</p> <p>(1) 地震直後からメキシコ人研究員のクワウテモックさんを派遣し、医療キャンプのコーディネーターや孤児院のケアにあたった(派遣回数は計5回)。経験ある人材を送るといった協力方法で、被災地の救援活動に多大なる貢献を行った。</p> <p>(2) 被災者団体 ACSIS の緊急物資配布にも資金面から協力を行った。(3) 9月には野崎理事が中・長期的プログラムの立案に向け現地入りし、下記のプログラムを提案。事務局と各カウンターパートが調整を進めて来た。</p> <p>●2011年度の計画：</p> <p>(1) 被災者経済再建支援プログラム(カウンターパート：ACISIS/場所：ラプレン)： 2011年1月、40人の女性に対し、事業再建資金の貸付を開始した。引き続き、受益者拡大のためマイクロファイナンス原資の貸付や、管理についてのモニタリングを行っていく。</p> <p>(2) コミュニティセンター建設(カウンターパート：Ayuda a Haiti/場所：レオガン)： 建設についての具体的な情報収集と相談を行っていく。</p> <p>(3) 農業支援のためのマイクロファイナンス(GEDDH/場所：レオガン)： 報告の通り、GEDDHによる農業支援をマイクロファイナンスでバックアップするという計画は、GEDDH側のマンパワー不足のため、現時点では実施が難しい旨連絡を受けた。今後も先方の状況に配慮しつつ、引き続き協働の可能性を模索していく。</p>

事業名(継続)	チリ地震救援プロジェクト
実施日時	2009年2月27日
実施場所	チリ国コンセプション
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>●2010年度までの経緯：</p> <p>HuMAへの支援を決定したものの、チリ政府筋からの救援依頼がなかったため、全額保留となっている。</p> <p>●2011年度の計画：</p> <p>今回の東北の津波を受け、同じく津波被災地であるチリとの人的交流(チリの被災者を呼ぶ等)を通じた防災プログラムなどが考えられる。</p>

事業名	ジャワ島中部地震救援ウォータープロジェクト (通称：呼び水プロジェクト)
実施日時	随時(2006年5月27日から)同プロジェクトは2008年4月1日から継続
実施場所	インドネシア・ジョグジャカルタ特別州グヌンキドル県パンガン郡ジリセカール村落内のナワンガン集落
受益対象者の範囲及び予定人数	直接的な対象者はナワンガン集落の住民132名だが、モデルケースの確立により、自然条件・経済的条件の類似した周辺住民(ジリセカール村落7000名、パンガン郡2万7000名)が裨益すると考えられる。
実施内容	<p>●2010年度までの経緯： 2008年1月、「呼び水プロジェクト」として、ナワンガン集落での水道管敷設を実施(同4月施工完了)。水と農業の問題に向き合ったことを機に、この集落が抱える貧困・若者の都市への流出についても住民自ら取り組みはじめた(浮いた水代をプールしてマイクロファイナンスを実施)。CODEはこれを受け、本格的に持続可能な暮らしの確保に向けて「JICA草の根技術協力事業(支援型)」案件(3年間で2500万円以下)への申請を決定した。事前調査・相談のため2010年7月、村井事務局長と岡本が現地を訪れ、ナワンガン集落住民、カウンターパートとなるデュタ・ワチャナ・キリスト教大学との話し合いを行った。</p> <p>●2011年度の計画： 「JICA草の根技術協力事業(支援型)」案件(3年間で2500万円以下)への申請作業を継続する。現在、実施までの6ステージのうち3段階目(「事業提案書作成・提出、内容検討、採否決定」)にあたる(※4段階目：相手国了承取付、5段階目：業務委託契約締結、6段階目：実施)ため、今年度中の提案書提出を目指す。</p> <p>なお、神戸学院大学防災・社会貢献ユニット浅野壽夫教授のゼミでは、2008年度、2010年度に続き2011年度も海外フィールド研修に同地を選んでおり、情報収集等において連携していくことになる。</p>

事業名	中国・四川省大地震救援プロジェクト
実施日時	2008年5月13日から
実施場所	地震被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	光明村及び周辺住民
実施内容	<p>●2010年度までの経緯： 当初建設を予定していた「総合活動センター」(医療施設等を含む)は、中国政府によって建設されることになったため、村の方々と協議の上この計画を変更し、「老年活動センター」の建設が決定した。2010年11月にはこれに関する調印式が行われ、芹田代表が出席した。</p>

	<p>●2011 年度の計画：</p> <p>引き続き着工に至る調整を続け、完成を急ぐ。「老年活動センター」は、高齢者が集い様々な活動を行うふれあいの場であり、高齢者の娯楽室、運動用スペースを備えるが、子ども向けの図書室なども設置し、幅広く住民が利用できる場となる予定である。これを、いま香泉郷には数少ない木造の耐震モデルとして建築し、骨組みが一部見えるようになった「震災展示室」も併設する。</p>
--	--

事業名	中国・青海省地震救援プロジェクト
実施日時	2010 年 4 月 14 日から
実施場所	中国青海省玉樹県の被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	青海省 540 万人、玉樹チベット族自治州人口 28 万人、玉樹県 10 万人
実施内容	<p>●2010 年度までの経緯：</p> <p>直後より 2008 年の同国四川省地震以来連絡を取り合っている成都市のゲストハウス「Sim's Cozy Garden Hostel」を通して実態把握に努めつつ、日本におけるの救援活動を立ち上げた。また、調査のため、四川に滞在中の吉椿を 2 度青海省に派遣し、地元 NGO とのネットワークを築いた。</p> <p>●2011 年度の計画：</p> <p>情報収集を継続し、「ヤク銀行」など支援策の具体化を目指す。</p>

事業名（新規）	インドネシア・ムラピ火山救援プロジェクト
実施日時	2010 年 12 月 10 日から
実施場所	インドネシア・ジョグジャカルタ州のムラピ火山噴火による被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>●2010 年度までの経緯：</p> <p>この火山で被害を受けたジョグジャカルタ特別州、中部ジャワ州は 2006 年 5 月のジャワ島中部地震の被災地でもある。当時から支援活動で CODE が協働している建築家・アーティストのエコ・プラウトさんや、エコさんを通して知り合ったアーティストのアラフマイアニ・フェイサルさんと連絡をとって情報収集にあたってきた。アラフマイアニさんのグループでは、食糧支援や給水設備の再建などを実施した。家畜の飼育や、火山灰に適した農作物の栽培など生計手段の立て直しを視野に活動している。</p> <p>●2011 年度の計画：</p> <p>火山災害からの復興は長期にわたるため、CODE は彼女たちの活動を長い目でバツ</p>

	クアッパしていく。アラフマイアニさんのグループが、エコさんとも連携して支援にあたっているため、引き続き連絡を取りながら彼女たちの活動をバックアップしていく。
--	--

事業名（新）	東日本大震災救援プロジェクト
実施日時	2010年3月14日から
実施場所	東日本大震災被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	<p>●2010年度までの経緯： CODEは主に海外の災害復興支援に取り組んできたが、身近な場所で起きたこのあまりに悲惨な状況を見過ごすことはできない。まずは募金の呼びかけを開始した。</p> <p>●2011年度の計画： これまでのCODEの経験やネットワークも役立てるとともに、地震発生から活動を開始している被災地NGO協働センターを支援する。CODEならではの知恵が提供できる。</p> <p>なお、半年を目処に、吉椿、岡本の2名のスタッフを被災地NGO協働センターに派遣し、東日本大震災の支援活動に従事してもらう。</p>

【人材育成事業】

事業名	次期事務局長の育成および事務局体制の充実化
実施日時	2011年4月より
実施場所	CODE事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	数名
実施内容	本年度より4年以内に事務局長を移行するにあたっての研修や、事務局体制を充実させるための仕組み作りを行う。
備考	人件費をはじめ必要な諸経費を計上する。

※従来行ってきた下記事業については、東日本大震災支援活動に注力するため、本年度は具体的な企画を見合わせることにする。

- ・ NGO ことはじめ
- ・ HAT 神戸内 国際機関訪問ツアー
- ・ スタッフのスキルアップ研修
- ・ ボランティアの日

【災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	災害情報サイト（CODE World Voice）の運営
実施日時	随時（2002年からの継続事業）
実施場所	SOHO形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて
実施内容	本事業は英語情報の日本語化が主であったが、東日本大震災救援については海外への英語での情報発信も視野に入れ、積極的に行っていく。

【ネットワーク構築事業】

事業名	（関係機関からの受託事業）神戸学院大学「防災・社会貢献ユニット」の前期授業企画および講師派遣
実施日時	4月から7月まで、毎週火曜日第4限目
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
受益対象者の範囲及び予定人数	約30名
実施内容	<p>CODEとのコラボレーション事業という位置付けで、4年目となる本年度も継続して神戸学院大学防災・社会貢献ユニットへの講師派遣を下記のスケジュールと講師陣で実施する。</p> <p><内容></p> <p>第1回(4/14木) ガイダンス：約50名出席（浅野）</p> <p>第2回(4/21木) CODE海外災害援助市民センターが担う社会貢献について（村井）</p> <p>第3回(4/28木) アフガニスタンと開発援助（村井）</p> <p>第4回(5/12木) 被災地における足湯ボランティア（藤室玲治）</p> <p>第5回(5/19木) ハイチ地震から学ぶ（村井）</p> <p>第6回(5/26木) ジェンダーと災害（斉藤容子）</p> <p>第7回(6/2木) 災害復興から持続可能な開発プロジェクト（インドネシア・ジョグジャカルタでの取り組み）（岡本千明）</p> <p>第8回(6/9木) 佐用町水害からの教訓—山と生きる（村井）</p> <p>第9回(6/16木) 災害時における地域力（織田峰彦）</p> <p>第10回(6/23木) 災害復興と行政の役割（斉藤富雄）</p> <p>第11回(6/30木) 地方分権と被災者主体、市民主体とは？（松本誠）</p> <p>第12回(7/7木) 農業と持続可能な社会（本野一郎）</p> <p>第13回(7/14木) 減災サイクルともう一つの社会（村井）</p> <p>第14回(7/21木) ふり返り（浅野・村井）</p> <p>第15回(7/23木) まとめ（浅野・村井）</p>

事業名	(関係機関からの受託事業) JICA 草の根技術協力事業(支援型)の案件形成 ~通称: インドネシア・呼び水プロジェクト~ ※災害救援事業の同名プロジェクトに準じる
実施日時	随時(2006年5月27日から)同プロジェクトは2008年4月1日から継続
実施場所	インドネシア・ジョグジャカルタ特別州グヌンキドル県パンガン郡ジリセカール村落内のナワンガン集落
受益対象者の範囲及び予定人数	直接的な対象者はナワンガン集落の住民132名だが、モデルケースの確立により、自然条件・経済的条件の類似した周辺住民(ジリセカール村落7000名、パンガン郡2万7000名)が裨益すると考えられる。
実施内容	「JICA 草の根技術協力事業(支援型)」案件(3年間で2500万円以下)への申請作業を継続する。現在、実施までの6ステージのうちの3段階目(「事業提案書作成・提出、内容検討、採否決定」)にあたる(※4段階目:相手国了承取付、5段階目:業務委託契約締結、6段階目:実施)ため、今年度中の提案書提出を目指す。 なお、神戸学院大学防災・社会貢献ユニット浅野壽夫教授のゼミでは、2008年度、2010年度に続き2011年度も海外フィールド研修に同地を選んでおり、情報収集等において連携していくことになる。

事業名	(関係機関からの受託事業) 関西 NGO 協議会からの講師派遣
実施日時	随時
実施場所	
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	前年度と同様、継続して行う。

事業名	(関係団体への正会員加盟やシンポジウムなどの実行委員会あるいは運営委員会への参加) 関西 NGO 協議会理事会に参加
実施日時	随時
実施場所	
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	前年度と同様、継続して行う。

【「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の 範囲及び予定 人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般
実施内容	前年度と同様、継続して行う。

【「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の 範囲及び予定 人数	不特定多数
実施内容	前年度ベースで会員増を目指す。 ・HP による情報発信 ・機関誌発行

事業名	救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の 範囲及び予定 人数	不特定多数
実施内容	前年度と同様、継続して行う。

事業名	機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関紙は年 3 回発行 インターネットは随時発信
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の 範囲及び予定 人数	機関紙は全国各地 700 人／団体 インターネットは不特定多数
実施内容	前年度と同様、継続して行う。

事業名	冊子及び書籍等の発行及び支援グッズの販売
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の 範囲及び予定 人数	不特定多数
実施内容	前年度と同様、継続して行う。

【その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	CODE エイド設立のための情報収集及び研究
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の 範囲及び予定 人数	約 5 名
実施内容	本事業については、発足当初以来検討されているが、前年度まではこうしたファン ドづくりは難しいという記載を続けてきた。しかし、2010 年末からの「タイガーマ スク」現象や東日本大震災による寄付の増加など、のうねりを受け、再度議論を浮 上させていく。

事業名	CODE スタッフへの奨学金制度の継続について
実施日時	随時
実施場所	
受益対象者の 範囲及び予定 人数	直接裨益するものは若干名
実施内容	前年度と同様、継続して行う。

事業名	CODE 設立 10 周年記念事業について
実施日時	2012 年 2 月
実施場所	神戸市
受益対象者の 範囲及び予定 人数	CODE 関係者 一般にも広く呼びかける
実施内容	未定